

【臨地実習】

授業科目名	基礎看護学実習Ⅰ		
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師
単位・時間数	1 単位 45 時間		開講年次 1 年次
目的	基礎看護学実習では、看護の対象を理解し、基礎看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し科学的根拠に基づいた看護が実践できる基礎的能力を習得するために、基礎看護学実習Ⅰでは、日常生活援助の実際を通して患者の状態に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。		
到達目標	【基礎実習Ⅰ-1】 基礎看護学実習Ⅰ-1では、患者の療養生活、看護活動の実際を知り、看護の役割・機能についての理解を深めることができる。 【基礎看護学実習Ⅰ-2】 1. 患者の日常生活状況を観て、援助の必要性を考えることができる。 2. 日常生活の援助を実施し、行った援助を振り返ることができる。 3. 患者に関心を持ち、コミュニケーションをはかることができる。 4. 看護倫理に基づき、対象を尊重した責任ある行動がとれる。 5. 看護実践を通して、自己の看護に対する考えを明らかにできる。		
授業内容			実習場所と時間内訳
【基礎看護学実習Ⅰ-1】 1. 実習1日目に病院施設を見学する。 1) 病棟施設見学 患者の療養生活や看護活動を理解するために、病棟施設を見学する。 2) 病院施設見学 病院施設の機能・特徴を学ぶために、病院の様々な部門を見学する。 2. 実習2日目に、病棟における看護の実際を見学する。 1) 看護活動の実際を知るために、1人の看護師と行動を共にする。 2) 患者の療養生活の実際や思いを知るために患者とコミュニケーションをはかる。 3. 看護の役割・機能について学びを深めるために、実習終了時のまとめの時間(30分程)で、病棟における看護の実際を見学したことで得られた気づきや学びを発表する。			大阪病院 10 時間
【基礎看護学実習Ⅰ-2】 1. 援助の必要性について考え、必要な日常生活援助を計画し実施するために、学生2名で1名の患者を5日間担当する。 2. 実習1日目は、指導者もしくは担当看護師の観察・援助の見学、患者とコミュニケーションし、得た情報から援助の必要性を考える。 3. 実習2～3日目は環境整備やバイタルサインの測定を指導者教員と共に実施する。 4. 実習4～5日目は、日常生活援助について、患者を担当する学生同士で援助の目的・必要性、留意点を考え、具体的な援助方法を計画し実施する。 5. 援助後は学生間で振り返り、援助の目的が達成されたか評価する。			大阪病院 35 時間
成績評価	1. 所定の実習時間の5分の4以上出席し、100点を満点とし60点以上の評点の取得をもって合格とする。ただし、基礎看護学実習Ⅰ-2のみを評価基準に基づき評価する。 2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の三者合意の評価とする。		
教科書	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ・基礎看護学技術Ⅱ 3. 看護がみえる Vol.1、Vol.2 Vol.3		
履修条件	基礎看護学実習Ⅰ-2に先立っては、専門分野Ⅰの「基礎看護技術援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ」の単位を修得しなければならない。		

【臨地実習】

【副題】	基礎看護学実習Ⅱ			
授業科目名				
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師	
単位・時間数	2 単位 90 時間		開講年次	2 年次後期
目的	基礎看護学実習では、看護の対象を理解し、基礎看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し科学的根拠に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。 基礎看護学実習Ⅱでは、知識・技術・態度を統合し、看護過程を展開して健康上の問題を解決できる基礎的能力を習得する。			
到達目標	1. 対象の全体像をとらえ、健康上の問題を特定できる。 2. 対象に必要な看護を計画し、実施・評価できる。 3. 看護倫理に基づき、対象を尊重した責任ある行動がとれる。 4. 看護実践を通して、自己の看護に対する考えを明らかにできる。			
授業内容			実習場所と時間内訳	
1. 患者 1 人を受け持ち、看護過程を展開する。 1) 1 週目は、患者の状況・状態に応じたアセスメントを行い、受け持ち 4 日目に関連図・全体像を描き、健康上の問題を特定する。5 日目に、特定した健康上の問題を解決するための看護計画を立案する。 2) 2 週目は立案した計画に基づいて援助を実施・評価し、必要に応じて追加・修正する。 2. 羞恥心やプライバシーの配慮、誠実な対応、自ら適切に報告、連絡、相談を心がけるなど、看護倫理に基づき、対象を尊重した責任ある行動を実践する。 3. カンファレンスを実施し、受け持ち患者の看護展開を討議し、問題解決にむけた知識の補充や患者へのかかわり方、看護に対する考え方について学ぶ。			大阪病院 90 時間	
成績評価	1. 所定の実習時間の 5 分の 4 以上出席し、100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。 2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の三者合意の評価とする。			
教科書	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ・基礎看護学技術Ⅱ 3. 看護過程に沿った対症看護 4. 看護が見える Vol.1 Vol.2 Vol.3 Vol.4			
履修条件	基礎看護学実習Ⅱに先立っては、「基礎看護学実習Ⅰ－2」の単位を修得しなければならない。			

【臨地実習】

授業科目名		成人看護学実習 I		
実務経験の有無	有 ・ 無	実務経験内容	看護師	
単位・時間数	2 単位 90 時間		開講年次	2 年次後期
目的	成人看護学実習では、成人期にある対象を総合的に理解し、問題解決プロセスを活用し、健康段階に応じた看護が実践できる能力を習得する。成人看護学実習 I では、身体機能の喪失や変化が対象の生活に与える影響を理解し、身体機能の維持・回復、生活の自立を支援するための看護が実践できる基礎的能力を養う。			
到達目標	1. 対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、全体像を把握することができる。 2. 対象の発達段階・健康段階に応じて、その人らしい自立した生活を送れるよう支援するための看護が実施できる。 3. 自己の実施する看護（説明や判断・実施、結果）が対象に与える影響を自覚し、責任ある行動がとれる。 4. 看護実践を通し、看護に対する考え方を明確にできる。			
授業内容				実習場所と時間内訳
1. 回復期にある患者へのその人らしい自立した生活を送れるよう支援するための看護を学ぶ。 1) 患者 1 人を受け持ち、看護過程を展開する。 2) 1 週目は、患者の状況・状態に応じたアセスメントを行い、受け持ち 4 日目に関連図・全体像を描き、健康上の問題を特定する。5 日目に、特定した健康上の問題を解決する必要な看護計画を立案する。 3) 2 週目～3 週目は立案した計画に基づいて援助を実施・評価し、必要に応じて追加・修正し、健康上の問題の解決にむけて援助をする。 2. 看護を実施する中で、自己の実施する看護（説明や判断・実施、結果）が対象に与える影響を自覚し、責任ある行動をとることについて学びを深める。 3. カンファレンスを実施し、受け持ち患者の看護展開を討議し、問題解決にむけた知識の補充や患者へのかかわり方、看護に対する考え方を学ぶ。				大阪病院 90 時間
成績評価	1. 所定の実習時間の 5 分の 4 以上出席し、100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。 2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の三者合意の評価とする。			
教科書	1. 成人看護学総論 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]～[14] 呼吸器・循環器・血液・造血器・消化器・内分泌・代謝・脳・神経・腎・泌尿器 女性生殖器運動器・アレルギー・膠原病・感染症・皮膚・眼・耳鼻咽喉 3. 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 4. 系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 5. 臨床看護総論			
履修条件	成人看護学実習 I に先立っては、「基礎看護学実習Ⅱ」「成人看護学総概論」「成人臨床看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」を修得していなければならない。			

【臨地実習】

授業科目名		成人看護学実習Ⅱ		
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師	
単位・時間数	2 単位 90 時間		開講年次	2 年次後期
目的	成人看護学実習では、成人期にある対象を総合的に理解し、問題解決プロセスを活用し、健康段階に応じた看護が実践できる能力を習得する。成人看護学実習Ⅱでは、疾病や症状が対象の心身や生活に与える影響を理解し、その人らしい生活が送れるよう支援するための看護が実践できる基礎的能力を養う。			
到達目標	1. 対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、全体像を把握することができる。 2. 対象の発達段階・健康段階に応じて、その人らしい自立した生活を送れるよう支援するための看護が実施できる。 3. 自己の実施する看護（説明や判断・実施、結果）が対象に与える影響を自覚し、責任ある行動がとれる。 4. 看護実践を通し、看護に対する考え方を明確にできる。			
授業内容				実習場所と時間内訳
1. 慢性期・終末期の患者へのその人らしい自立した生活を送れるよう支援するための看護を学ぶ。 1) 患者 1 人を受け持ち、看護過程を展開する。 2) 1 週目は、患者の状況・状態に応じたアセスメントを行い、受け持ち 4 日目に関連図・全体像を描き、健康上の問題を特定する。5 日目に、特定した健康上の問題を解決する必要な看護計画を立案する。 3) 2 週目～3 週目は立案した計画に基づいて援助を実施・評価し、必要に応じて追加・修正し、健康上の問題の解決にむけて援助をする。 2. 看護を実施する中で、自己の実施する看護（説明や判断・実施、結果）が対象に与える影響を自覚し、責任ある行動をとることについて学びを深める。 3. カンファレンスを実施し、受け持ち患者の看護展開を討議し、問題解決にむけた知識の補充や患者へのかかわり方、看護に対する考え方を学ぶ。				大阪病院 90 時間
成績評価	1. 所定の実習時間の 5 分の 4 以上出席し、100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。 2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の三者合意の評価とする。			
教科書	1. 成人看護学総論 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]～[14] 呼吸器・循環器・血液・造血器・消化器・内分泌・代謝・脳・神経・腎・泌尿器 女性生殖器運動器・アレルギー・膠原病・感染症・皮膚・眼・耳鼻咽喉 3. 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 4. 系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 5. 臨床看護総論			
履修条件	成人看護学実習Ⅱに先立っては、「基礎看護学実習Ⅱ」「成人看護学概論」「成人臨床看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」を修得していなければならない。			

【臨地実習】

授業科目名		成人看護学実習Ⅲ		
実務経験の有無	有 ・ 無	実務経験内容	看護師	
単位・時間数	2 単位 90 時間		開講年次	3 年次前期
目的	成人看護学実習では、成人期にある対象を総合的に理解し、問題解決プロセスを活用し、健康段階に応じた看護が実践できる能力を習得する。成人看護学実習Ⅲでは、生体機能の急激な変化が生命維持に与える影響を理解し、生命維持や苦痛の緩和、健康の回復に向けた看護が実践できる基礎的能力を習得する。 また、手術室における看護の実際と看護師の役割を理解し、周手術期にある患者の看護について理解を深める。			
到達目標	1. 手術・麻酔の侵襲や疾患が対象に及ぼす影響を理解できる。 2. 対象の状態に応じて、生命維持・健康回復のための看護が実践できる。 3. 自己の実施する看護（説明や判断・実施、結果）が対象の生命維持・健康回復に与える影響を自覚し、責任ある行動がとれる。 4. 看護実践を通して、自己の看護に対する考えを明らかにできる。 5. 手術室での看護の実際を知り、看護師の役割を理解できる。 6. 手術室における医療チームの連携とチームにおける看護師の役割が理解できる。			
授業内容				実習場所と時間内訳
成人看護学実習Ⅲでは、周手術期にある患者の看護について理解を深めるために、実習 1 週目の初日に手術室見学実習を行い、実習 2 日目以降から病棟実習を行う。 【手術室見学実習】 1. 手術室での看護の実際や手術中の看護師の役割を学ぶために、学生 2～3 名ずつに分かれて手術を見学する。 2. 手術室における医療チームの連携とチームにおける看護師の役割を学ぶ。 3. 手術を見学して気づいたことや疑問点、実習目的・目標について学んだことと病棟実習に向けての課題などについて意見交換・討議を行う。 【病棟実習】 1. 2～5 日目は、手術前・手術直後の看護の実際を学ぶために、指導者・担当看護師と行動を共にする。 2. 実習 2 週目からは、周手術期の患者を（できる限り、術前から）受け持ち、看護過程を展開する中で、手術・麻酔の侵襲や疾患が対象に及ぼす影響を考え、生命維持・健康回復のための看護を実施する。 3. 術後 2 日目に関連図・全体像、術後 3 日目に看護計画を立案し、術後 4 日目以降から主体的に手術後の看護を実施・評価する。 4. 原則、受持ち患者の手術は見学する。				大阪病院 手術室見学実習 7.5 時間 病棟実習 82.5 時間
成績評価	1. 所定の実習時間の 5 分の 4 以上出席し、100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。 2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の三者合意の評価とする。			
教科書	1. 成人看護学総論 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]～[14] 呼吸器・循環器・血液・造血器・消化器・内分泌・代謝・脳・神経・腎・泌尿器 女性生殖器運動器・アレルギー・膠原病・感染症・皮膚・眼・耳鼻咽喉 3. 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 4. 系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 5. 臨床看護総論			
履修条件	成人看護学実習Ⅲに先立っては、「成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ」「成人看護学概論」「成人臨床看護援助論Ⅰ～Ⅴ」を修得していなければならない。			

【臨地実習】

【副題】		老年看護学実習Ⅰ		
授業科目名				
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師・認知症ケアサポーター	
単位・時間数	2 単位 90 時間		開講年次	3 年次前期
目的	老年看護学実習では、高齢者および家族の特徴を理解し、その人らしい生活ができるように看護が実践できる能力を習得する。また、実践を通して自らの老年観について深めるために、老年看護学実習Ⅰでは、健康障害をもつ高齢者の症状や治療・処置が心身に与える影響を理解し、生活機能の維持・回復、促進および生活の自立にむけて、高齢者のもてる力に働きかけ看護を実践する能力を習得する。また、そのために保健・医療・福祉システムの実際と他職種との連携について理解を深める。			
到達目標	(介護老人保健施設実習) 1. 施設における専門職の役割と連携について理解できる。 2. 高齢者の特徴を理解し、入所者への理解を深めて関わることができる。 3. 看護倫理に基づき、自分の行動に責任をもつことができる。 (病棟実習) 1. 加齢や健康障害に伴う身体機能の低下や障害がある対象の全体像を把握することができる。 2. 対象の生活機能の維持・回復、促進、生活の自立を支援するための看護が実践できる。 3. 看護倫理に基づき、対象とその家族を尊重した看護が実践できる。 4. 看護実践を通して、自己の看護に対する考えを明らかにできる。			
授業内容			実習場所と時間内訳	
(1 週目：介護老人保健施設実習) 1. 入所者を一人受け持ち、関わりから全体像を把握する。 2. 施設における専門職の役割と連携について学ぶために、看護師と行動を共にし、援助を見学する。 3. 入所者への理解を深めるために、入所者の生活リズムを理解し、状況・状態に応じたコミュニケーションを行う。 4. 入所者とのコミュニケーションの 1 場面を取り上げ、プロセスレコードを 3 日間記載し、コミュニケーションを振り返る。 (2～3 週目：病棟実習) 1. 急性期～回復期・維持期の患者に対する看護を学ぶために、患者 1 人を受け持ち、看護過程を展開する。 2. 受け持ち 3 日目までに関連図・全体像を描き、4 日目に看護計画を立案する。 3. 5 日目から、主体的に高齢者とその家族へ関わり、生活機能の維持・回復、促進、生活の自立を支援する援助を実施・評価する。 4. 患者との関わりをとおして、看護倫理に基づき、対象とその家族を尊重した看護について理解を深める。 5. カンファレンスを実施し、受け持ち患者の看護展開を討議し、問題解決にむけた知識の補充や高齢患者へのかかわり方を学び、老年看護に対する考えを深める。			介護老人保健施設 30 時間 <	

【臨地実習】

授業科目名	老年看護学実習Ⅱ			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師	
単位・時間数	2 単位 90 時間		開講年次	3 年次前期
目的	老年看護学実習では、高齢者および家族の特徴を理解し、その人らしい生活ができるように看護が実践できる能力を習得する。また、実践を通して自らの老年観について深めるために、老年看護学実習Ⅱでは、疾患の慢性的な状態が高齢者と家族に与える影響を理解し、人生の最期までその人らしく生活できるように看護を実践する能力を習得する。			
到達目標	1. 慢性的な状態、あるいは回復が期待できない状態にある対象の全体像が把握することができる。 2. 対象の望む生活に近づけ、人生の最期までその人らしく生活できるように支援するための看護が実践できる。 3. 看護倫理に基づき、対象とその家族を尊重した看護が実践できる。 4. 看護実践を通して、自己の看護に対する考えを明らかにできる			
授業内容			実習場所と時間内訳	
1. 慢性期・終末期の患者に対する看護を学ぶために、患者 1 人を受け持ち、看護過程を展開する。 2. 受け持ち 3 日目までに関連図・全体像を描き、4 日目に看護計画を立案する。 3. 5 日目から、主体的に高齢者とその家族へ関わり、対象の望む生活に近づけ、人生の最期までその人らしく生活できるように援助を実施・評価する。 4. 患者との関わりをとおして、看護倫理に基づき、対象 5. 6. とその家族を尊重した看護について理解を深める。 7. カンファレンスを実施し、受け持ち患者の看護展開を討議し、問題解決にむけた知識の補充や高齢患者へのかかわり方を学び、老年看護に対する考えを深める。			大阪病院 90 時間	
成績評価	1. 所定の実習時間の 5 分の 4 以上出席し、100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。 2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の三者合意の評価とする。			
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学			
履修条件	老年看護学実習に先立っては、「基礎看護学実習Ⅱ」「老年看護学概論」「老年臨床看護援助論」「老年看護技術」を修得しなければならない。			

【臨地実習】

授業科目名	小児看護学実習			
実務経験の有無	有	無	実務経験内容	看護師・保育士
単位・時間数	2 単位 90 時間		開講年次	3 年次後期
目的	子どもとその家族を総合的に理解し、発達段階・健康段階に応じた看護を、子ども及び家族の権利を尊重しながら実践できる基礎的能力を習得する。			
到達目標	- 子どもとの関わりを通して、子どもの成長発達過程の実際と、成長発達を促す日常生活援助が理解できる。 - 健康障害がある子どもとその家族の全体像を把握できる。 - 成長発達段階・健康段階に応じた援助ができる。 - 自己の実施する看護が子ども及び家族に与える影響を自覚し、子どもの権利を尊重した責任ある行動がとれる。 - 看護実践を通して看護に対する考え方を明確にできる。			
授業内容				実習場所と時間内訳
(保育所実習) 1. 1 週目に保育所で 3 日間実習する。 1) 保育所の概要および子どもへの接し方や、保育所における看護師の役割と実際の業務の説明を受ける。 2) 子どもの成長発達過程の実際と、成長発達を促す日常生活援助を学ぶために、各クラスに入り遊びや日常生活援助などに関わる。				認定こども園 25.5 時間
(学内実習) 2. 保育実習で学んだ、子どもの成長発達過程の実際と、成長発達を促す日常生活援助を病棟実習に活かすために、学内で事例検討を行う。 1) 小児の事例に基づいて看護について討議し、発達段階と健康段階に応じた子どもとその家族へのかかわり方を考える。 2) 小児看護の事例に基づき、プレパレーションやディストラクション、日常生活援助などの演習を実施・評価し、課題を明確にする。				学内実習 4.5 時間
(病棟実習) 3. 健康障害がある子どもへの看護を学ぶために、8 日間病棟実習を行う。 1) 患児 1 人を受け持ち、発達段階・健康段階に応じた看護を実施する。 2) 患児との関わる中で、子どもの権利を尊重した責任ある行動について理解を深める。 3) カンファレンスを実施し、受け持ち患児の看護を討議し、問題解決にむけた知識の補充や患児とその家族へのかかわり方を学び、小児看護に対する考えを深める。				大阪病院 60 時間
成績評価	- 所定の実習時間の 5 分の 4 以上出席し、100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。 - 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の三者合意の評価とする。			
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論			
履修条件	小児看護学実習に先立っては、「基礎看護学実習Ⅱ」「小児看護学概論」「小児臨床看護援助論Ⅰ・Ⅱ」「小児看護技術」を修得しなければならない。			

【臨地実習】

授業科目名	母性看護学実習			
実務経験の有無	有	無	実務経験内容	助産師・アドバンス助産師・思春期保健相談員
担当講師の実務経験	2 単位 90 時間		開講年次	3 年次後期
目的	周産期各期における妊産褥婦および児とその家族の特徴を知り、対象に応じた看護を実践できる能力を養うとともに、命を育む過程や生命の誕生に触れ、生命倫理について自己の考えを深めることができる。			
到達目標	1. 周産期各期の妊産褥婦および児とその家族の特徴を知り、正常に経過するための看護が実践できる。 1) 妊婦および胎児とその家族の特徴を知り、妊娠経過に応じた看護が理解できる。 2) 産婦および児とその家族の特徴を知り、分娩進行に応じた援助ができる。 3) 褥婦および新生児とその家族の特徴を知り、産褥経過に応じた援助ができる。 4) 新生児と褥婦の特徴を知り、児の胎外生活適応にむけた援助ができる。 2. 専門職としての責任を自覚し、看護倫理に基づいた看護を実践できる。 3. 看護実践を通して、自己の母性看護に対する考えを明らかにできる。			
授業内容				実習場所と時間内訳
1. 基本的に学生 2 名で妊娠期・分娩期、産褥期、新生児期をローテーションする。 2. 1 週間で妊娠期および分娩期の看護を理解し、実施する。 (妊娠期実習) 1) 妊娠経過に応じた看護を理解するために、2 日間（午前中）産婦人科外来で保健指導を見学する。 2) 可能であれば、超音波検査の見学、助産師の指導のもとで、腹囲・子宮底計測、ドップラー聴診など看護技術を実施する。 (分娩期実習) 1) 分娩期にある産婦 1 人を受け持ち、産婦および児とその家族の特徴を知り、分娩進行に応じた援助を実施する。 (実習時間中に入院から分娩第 4 期までの産婦が対象) 2) 帝王切開の場合は、指導者のもと手術室で見学する。 3. 産褥期の看護および新生児期の看護をそれぞれ 1 週間実施する。 (産褥期実習) 1) 分娩後は可能であれば引き続き受け持ち、産褥期実習に移行し、産褥経過に応じた援助をする。 2) 受け持ち期間は原則、受け持ち褥婦が退院するまでとする。 (新生児期実習) 1) 新生児 1 人を受け持ち、児の胎外生活適応にむけた援助を実施する。 2) 受け持ち期間は原則、受け持ち新生児が退院するまでとする。 3) 分娩がある場合は、出生直後の新生児看護を見学する。 4. その他、機会があれば見学実習を実施する。 1) マタニティクラス：第 1・2・3 水曜日、第 4 金曜日 2) 産後 2 週間健診：毎週月曜日 3) 産後 1 か月健診：毎週水曜日 4) 助産師外来（乳房外来・妊婦健診）：毎週火・金曜日				大阪病院 90 時間
成績評価	1. 所定の実習時間の 5 分の 4 以上出席し、100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。 2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の三者合意の評価とする。			
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論			
履修条件	母性看護学実習に先立っては、「基礎看護学実習Ⅱ」「母性看護学概論」「母性臨床看護援助論Ⅰ・Ⅱ」「母性看護技術」を修得しなければならない。			

【臨地実習】

授業科目名	精神看護学実習			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師	
単位・時間数	2 単位 90 時間		開講年次	3 年次前期
目的	精神に障害がある対象を全人的に理解し、治療的関係を形成しながら、対象の自立と社会復帰に向けた看護を実践できる基礎的能力を習得する。			
到達目標	(精神保健福祉施設実習) 1. 精神障害のある人との関わりを通して、地域で暮らす思いや社会生活について理解を深めることができる。 2. 精神障害をもつ人が地域で生活するために必要な支援について理解を深めることができる。 3. 倫理的配慮に基づき、自分の行動に責任をもつことができる。 (精神病院実習) 1. 精神に障害がある対象の全体像を把握するために、対象の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる 2. 精神に障害がある対象と治療的関係を形成しながら意図的に援助が実施できる。 3. 倫理的配慮に基づいた看護が実践できる。 4. 精神に障害のある人の社会復帰に向けた看護が理解できる。 5. 看護実践を通して、精神看護に対する自己の考えを明らかにできる。			
授業内容			実習場所と時間内訳	
治療的関係を形成しながら、対象の自立と社会復帰に向けた看護を理解するために、精神保健福祉施設実習 4 日間、精神病院実習を 9 日間実施する。			就労継続支援 B 型施設 27 時間	
(精神保健福祉施設実習) 1. 就労継続支援を体験しながら、利用者とコミュニケーションを行う。 2. 精神保健福祉制度について、職員からオリエンテーションや利用者との関わりを通して理解を深める。			精神科病院 63 時間	
(精神病院実習) 1. 実習 1 週目の初日に 1 人の患者を受け持ち、5 日目までに全体像を把握する。 2. 実習 2 週目の初日までに看護計画を立案し、治療的関係を形成しながら意図的に対象の自立と社会復帰に向けた援助を実施する。 3. プロセスレコードで患者との関わりの一場面を振り返り、患者との相互作用を考える。 4. 病棟ケースカンファレンス、外来・在宅医療室・作業療法センター・デイケアセンター・院外実習については各指導者の指示のもと行動する。 5. 訪問看護、外来実習などの機会があれば、担当教員・実習指導者と相談して見学実習を行う。				
成績評価	1. 就労継続支援 B 型施設（4 日間）と病院実習（8 日間）それぞれの総時間数の 5 分の 4 以上の出席を満たさなければならない。			
	2. 100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。			
	3. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の三者合意の評価とする。			
教科書	情緒発達と精神看護の基本 精神看護学① 精神障害と看護の実践 精神看護学②			
履修条件	精神看護学実習に先立っては、「基礎看護学実習Ⅱ」「精神看護学概論」「精神臨床看護援助論Ⅰ・Ⅱ」「精神看護技術」を修得しなければならない。			

【臨地実習】

授業科目名	在宅看護論実習			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師・理学療法士・介護福祉士	
単位・時間数	2 単位 90 時間		開講年次	3 年次後期
目的	地域で療養しながら生活する人と家族を理解し、在宅において看護を実践できる基礎的能力を習得する。			
到達目標	1. 在宅療養者と家族を生活者として理解できる。 2. 在宅療養者と家族の健康問題や生活における問題を理解し、解決するための援助ができる。 3. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割や関係職種との連携について理解することができる。 4. 多様な人々の価値観に触れ看護者としての基本姿勢と倫理観を養うことができる。 5. 看護実践を通して、在宅看護に対する考えを明らかにできる。			
授業内容				実習場所と時間内訳
(訪問看護ステーション実習) 1. 療養者 1 人を受け持ち、1 回目に訪問した翌々日に看護計画を立案し、援助を実施する。 2. 受け持ち療養者の訪問日以外の日、同行訪問実習を行う。 1) 訪問前に、担当看護師と訪問目的について確認し、援助の実施内容と方法について事前に相談し、実施する。 2) 訪問後は、療養者の反応や援助の効果を評価する。 3. カンファレンスを実施し、受け持ち患者の看護展開を討議し、問題解決にむけた知識の補充や療養者と家族へのかかわり方、訪問看護師の役割について学ぶ。 (外来実習) 1. 地域で療養しながら生活する人と家族を理解するために、1 人の患者を受診終了まで受け持ち、外来診療場面の見学とコミュニケーションを行う。 2. 受け持ち患者の診察が終了すれば、看護師と行動を共にし、外来看護における看護師の役割を中心に見学を行う。 (デイサービス・デイケア見学実習) 1. デイサービス・デイケアにおける看護師の役割を理解するために、実習 3 週目に 2 日間、朝の迎えから自宅への送迎を見学する。 2. レクリエーションを企画し、許可が得られたら実施する。				訪問看護ステーション 67.5 時間 大阪病院外来 7.5 時間 デイサービス、デイケア 15 時間
成績評価	1. 所定の実習時間の 5 分の 4 以上出席し、100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。 2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の三者合意の評価とする。			
教科書	1. 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 2. 系統看護学講座 別巻 家族看護学			
履修条件	在宅看護論実習に先立っては、「基礎看護学実習Ⅱ」「在宅看護論概論」「在宅看護援助論Ⅰ・Ⅱ」を修得しなければならない。			

【臨地実習】

授業科目名	看護統合実習		
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師・医療ソーシャルワーカー・精神保健福祉士
単位・時間数	2 単位 90 時間		開講年次 3 年次後期
目的	1. 実務に即した実習を行うことで、状況・状態を適切に判断し、対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。 2. 看護管理の実際を学び、基礎的なマネジメント能力を養う。		
到達目標	1. 看護管理の実際が理解できる。 2. 複数患者の状況・状態に応じた看護が実践できる。 3. 患者の 24 時間の生活を知り、看護の役割を理解できる。 4. 医療チームの一員であることを自覚し、自らの判断・行動に対する責任感を養うことができる。 5. 実践を通して看護観を養い、自己の目標や課題を明確にできる。		
授業内容			実習場所と時間内訳
【実習 1 週目の 1～4 日目】 1. 管理実習 実習 1 週目の 4 日間の中の 1 日は、病棟管理業務の実際を学ぶために、病棟看護師長と行動を共にする。 2. 医療チーム実習 1) 入退院支援実習 入退院支援の実際を学ぶために、実習 1 週目の 4 日間の中の 1 日は、医療福祉相談室のスタッフと行動を共にする。 2) メンバー実習 チームの連携・協働における看護師の役割を学ぶために、実習 1 週目の 4 日間の中の 2 日間は、病棟でメンバーと共に行動し、指導・助言の下で援助を一部実施または見学する。			大阪病院 日勤帯実習 77.5 時間
【実習 1 週目の 5 日目以降】 3. 複数患者担当実習 1) 複数患者の状況・状態に応じた看護を実践するために、実習 5 日目から 1 人の看護師が担当する患者のうち、2～3 名程度を学生が担当する。 2) 担当する複数の患者の状況・状態をとらえ、優先度の判断や時間管理の根拠を、主体的に考えながら立案する。指導者・担当看護師と相談しながら看護を実施もしくは見学する。			
4. 夜間実習 1) 夜間帯の看護の実際と看護師の役割を理解するために、2 週目に夜間実習を 1 日行う。 2) 患者の様子を観察し、夜間の患者の特徴やニーズを考える。			夜勤帯実習 12.5 時間
成績評価	1. 所定の実習時間の 5 分の 4 以上出席し、100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。 2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の三者合意の評価とする。		
教科書	系統看護学講座　統合分野　看護管理		
履修条件	看護統合実習は、「各専門領域実習」「医療安全」「看護の統合」「看護技術統合演習Ⅰ・Ⅱ」を修得しなければならない。		